

3) 防災に強い地域づくりの推進

◆沿岸地域の市町村では「地域防災計画」により海岸災害時の対応が計画されており、住民の防災意識・知識の普及や自主防災組織の指導・育成計画などが検討されています。渡島南沿岸住民アンケート結果からは災害に対して不安を感じている住民が多く、避難場所を知らないという回答が半数以上となっています。

表-1 沿岸市町村の防災対策

市町村	地域防災計画	避難所	避難路	情報通報施設	防災・避難訓練	防災ハンドブック	備考
函館市	○	○	○	○	○	○	
北斗市	○	○		○	○		
木古内町	○	○					
知内町	○	○					
福島町	○	○					

資料-「地域防災計画」他(各市町村)

◆防災ハンドブックや防災マップなどを利用して住民の災害時の対応や防災意識・知識の向上を図っていくことが必要です。

地震対策について

地震発生時の時間経過別行動マニュアル

地震発生 **とにかく自分の身を守ろう!**
地震だ! まず身の安全
大きな揺れを感じたり、緊急地震速報を受けたら、姿勢を低くし、頭を守り、揺れがおさまるまで待ちましょう。

2~5分 **しっかり火の始末で、火災防止!**
大揺れがおさまった
台所やストーブなど火の始末をしましょう。避難の時は、電気のブレーカーを下ろし、ガスの元栓を締めましょう。

5~10分 **わが家の安全確認、確保!**
火の始末のあと
家族の身の安全を確認、確保し、災害情報、避難情報を入手しましょう。また、避難可能な出口も確保しましょう。

10分~半日 **隣近所の安全確認、助け合い!**
外に出たあと
家の家具の下敷きになった人の救出や、消火活動を隣近所で協力して行いましょう。

半日~3日 **2,3日は自分だけのく!**
避難後、数日間
地震発生後の数日間は、水、食料に加え、電気が途絶えます。この間、日頃から、生活必需品(非常用品)を準備し、自分でしのげるようにしておきましょう。

家の中

- 揺れを感じたら、身の安全を確保し、すばやく屋外の安全な場所へ避難する。
- 揺れがおさまったら火の確認はすみやかに(コンセントやガスの元栓の故障も忘れず)。
- 乳幼児や病人、高齢者など要支援者の安全を確保する。
- 様定できずおさまらない(ガラスの破片などでケガをする)。

路上

- その場に立ち止まらず、窓ガラス、看板などの落下物から身をガードして、壁や柱など安全な場所へ避難する。
- 近くに空き地などがないときは、道路の状況を確認して、建物から離れた安全性の高い場所へ移動する。
- プロップ車や自動販売機などには近づかない。
- 倒れそうな電柱や電線が下がった電線に注意する。

車を運転中

- ハンドルをしっかりと握り、後方にぶつかると危険な車や歩行者の通行スペースを確保し、道路の状況を確認して、カーラジヤで情報を収集する。
- 揺れが収まるまで冷静に道路の状況を把握し、カーラジヤで情報を収集する。
- 避難が必要な時は、キーはつけたまま、ドアロックもしない。車庫裏などの貴重品を必ず持ち出し、徒歩で避難する。

海沿い付近

- 堤防へ避難し、津波情報をよく聴く。注意報・警報が解除されるまでは堤防に近づかない。

津波対策について

津波警報・注意報の分類と、とるべき行動

警報の種類	予想される津波の高さ	とるべき行動	想定される被害
大津波警報	10m超 (10m未満)	沿岸部や川沿いにいる人は、ただちに高台や津波避難ビルなど安全な場所へ避難してください。 津波は繰り返し襲ってくるので、津波警報が解除されるまで安全な場所から離れないでください。	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれる。
津波警報	10m (5m未満は10m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生する。人は津波による流れに巻き込まれる。
津波注意報	3m (1m未満は3m)	低い	海の中では人は遠い流れに巻き込まれる。避難ビルなどが流され、中型船舶が転覆する。
津波注意報	1m (0.5m未満は1m)	(表記しない)	

津波からの避難

地震の揺れを感じたら! -強い地震だけでなく、弱い地震であっても、避難行動を開始したときも-

正しい情報の入手
テレビ、ラジオ、防災行政無線など

津波警報・注意報がでたら!
避難情報がでたら! → ただちに避難!

安全な場所へ
指定の避難所、避難ビルへ、避難行動を開始します。(9:29~30)

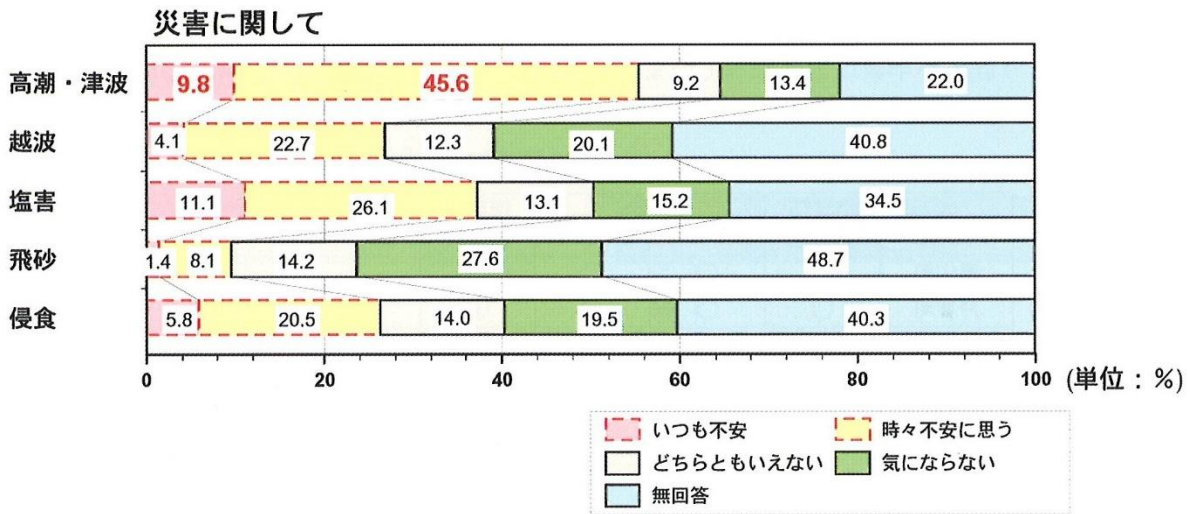
津波の特性と避難行動のポイント

- 1 水切からすぐに流れを
- 2 津波の速度は非常に速い
- 3 避難したら戻らない
- 4 津波は何度も来る
- 5 津波は場所により高くなる
- 6 津波は遠方から来る

図-10 防災ハンドブック

資料-長万部町防災ハンドブック(長万部町)

◆渡島南沿岸住民アンケートによると、「災害についてどのように感じていますか」では高潮・津波に対して半数以上が不安であると感じています。



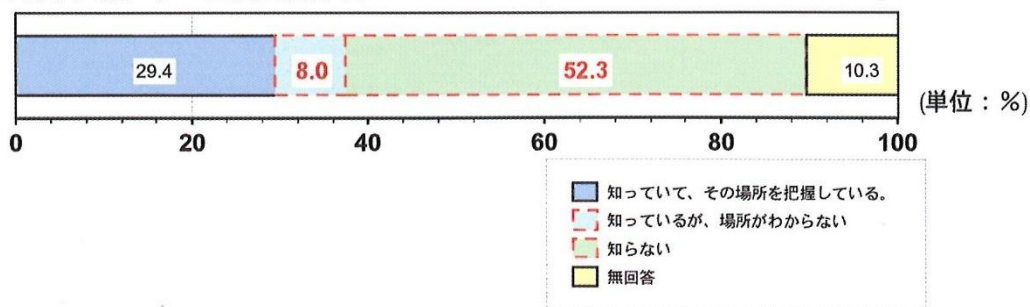
図－11 災害についてどのように感じているか

資料－渡島南沿岸住民アンケート（2000年12月）

◆渡島南沿岸住民アンケートによると、「海岸災害時の避難場所を知っていますか」では半数以上が避難場所を知らない状態にあります。

住民の防災知識の普及・啓発、地域の防災体制を強化することが必要です。

海岸災害時の避難場所を知っていますか



図－12 災害時の避難場所を知っているか

資料－渡島南沿岸住民アンケート（2000年12月）

5.2 海岸環境の現況と課題

1) 貴重な動植物の保護、身近な自然の保全・復元

◆海岸は砂浜にハマヒルガオやハイネズなどの海岸植生、断崖には海岸林などの海岸断崖植生が分布し、鳥や昆虫などの動物たちにとっても良好な生息空間となっています。近年、自然環境に配慮しない開発や砂浜への車両乗り入れ、海岸侵食などによって動植物の貴重な生息・自然環境が失われつつあります。

今後は貴重な動植物はもとより都市地域、漁村周辺の身近な自然に至るまで、自然機能がバランス良く維持されるように海岸自然環境への配慮が必要です。



写真－14 海岸植生

◆渡島南沿岸の貴重な動植物



写真－15 コクガン



写真－16 ハイネズ

2) 自然環境・景観に配慮した施設整備の促進

◆最近の海岸保全施設や観光・レクリエーション施設は住民の環境意識の向上と共に自然環境・景観に配慮した計画・整備が行われてきています。

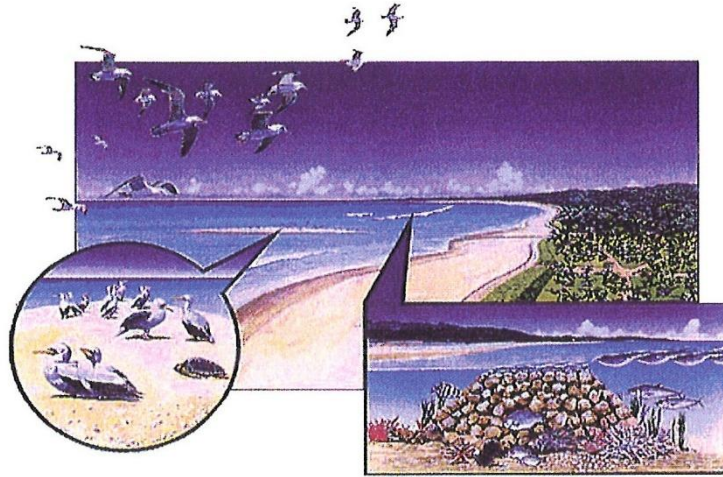


図-13 環境に配慮した保全施設イメージ

◆渡島南沿岸住民アンケートによると、「利便施設等を整備していくことについて」では、ゴミ問題、景観や眺めに配慮した施設整備や自然環境と共生・活用する施設整備を進めることが期待されています。

今後も良好な海岸環境を創造していくため、関係機関と連携し、継続した環境調査、環境造成手法の開発・研究などを進めると共に自然環境・景観に配慮した保全・利便施設の整備を図ることが必要です。

今後防災施設を整備していくことについて

渡島南沿岸 海岸に関するアンケート調査



今後利便施設を整備していくことについて



図-14 利便施設を整備していくことについて